倫理委員会審議内容

令和6年9月11日開催

No.3	申請者：看護師長 湧川 傑
課 題	副看護師長の育成とは～インタビューから見てきたこと～
研究の概要	看護師長が副看護師長の育成に関わる中で、「どのように育成したらいいのだろうか」など悩むことがあった。そこで、看護師長の副看護師長の育成における想いや、考えについてインタビューを行い、看護師長が描く副看護師長像を明らかにするために、研究に取り組んだ。
判 定	承認
利益相反審査判定	承認

倫理委員会審議内容

令和6年9月11日開催

No.4	申請者：副看護師長 照屋 寛靖
課 題	リフレクション能力向上への取り組み -副看護師長の自己開発能力向上を目指して-
研究の概要	<p>国立病院機構における看護管理者能力プログラム開発(以下CREATE)においても、人材育成能力・自己開発力の項目においてレベルⅠ～Ⅳまで自己のリフレクションと部下へのリフレクション支援が学習・実践の内容として挙げられており、看護管理者としてリフレクションは必要な能力であることが示されている。しかし、萩原ら(2010)が行った新人看護師へのリフレクション研究において、リフレクションを実施した対象者の思いはポジティブカテゴリが92.5%を占める一方で、ネガティブカテゴリが7.5%抽出された。リフレクションの進め方や支援方法によっては、非効果的な影響をもたらすことが考えられるが、リフレクション支援者に対する教育プログラムを具体的に示した研究は少ない。また、我が国で報告されているリフレクション研修は単回のものが多い。そのため今回我々は人材育成能力開発の一環として、当院の副看護師長に対しリフレクション支援の能力向上・スキルの獲得が出来るよう様々な取り組みを行い、リフレクションの知識・技術を獲得する取り組みを実践し、リフレクションへの理解を深め、課題を明らかにしたいと考える。</p>
判 定	承認
利益相反審査判定	承認

倫理委員会審議内容

令和6年9月11日開催

No.5	申請者：看護師 大橋 りか
課 題	クロザピン治療専門病棟での不穏時における頓服薬使用に関する患者、看護師の想い
研究の概要	本研究では、不穏時頓服薬の使用について患者と、看護師双方の想いについて明らかにする。患者、看護師双方の想いを明らかにすることで、今後の患者対応の質の向上と患者の服薬理解の支援に活かすことを目的とする。
判 定	承認
利益相反審査判定	承認

倫理委員会審議内容

令和6年9月11日開催

No.6	申請者：看護師 饒平名 彩宙
課 題	「妄想を訴える患者に対する精神科救急病棟で勤務するスタッフの対応への意識・現状を知る」
研究の概要	<p>妄想は訂正不能の誤った確信と表現されるように、内容が不合理であり、かつ、どのように論理的に説得しても訂正されないことが特徴である。精神科看護において、その対応は業務の中で多くの時間と労力を有するものである。</p> <p>私自身、精神科救急病棟で勤務し5年が経過するが、妄想を訴える患者への対応に困難さを感じていた。しかし、中堅看護師(精神科救急5年目以上)とともに対応することで状況が変化し、ケアをスムーズに実践することが出来た。その経験から中堅看護師が妄想を訴える患者に対してどのように考え、対応を行うことで、うまく場を収めているのかという疑問が生まれた。しかし、妄想を訴える患者の対応は個々人で行われることがあり、実際に対応した看護師が何を考えて、どのような対応をしたのかという事が見えづらい現状がある。そこで今回、妄想を訴える患者への対応について対象者を東 I 病棟で勤務する中堅看護師(当精神科救急病棟に勤務する精神科看護経験5年以上)と設定し、インタビューを実施してその考えと対応を調査することで、見えづらい現状を明らかにし、今後の対応方法の活用に繋げていきたいと考える。</p>
判 定	承認
利益相反審査判定	承認